

Special Interview OB・OGの今

Alumni Report

株式会社ガンバ大阪 代表取締役社長

小野 忠史 おの ただし

スポーツもビジネスも

「あきらめない心」で可能性を追求。

私がガンバ大阪の社長に就任したのは今年の4月。前年に副社長へ就任するまではサッカーを観戦したこともなく、ほとんど素人同然でした。そこで初めてJリーグを生で観戦。野球と異なる雰囲気とサポーターの圧倒的な盛り上がり「なんだこれは…」と鳥肌が立ちました。ガンバ大阪といえばJリーグ設立当初から参加する歴史あるクラブ。熱狂的なファンもたくさんいます。その経営を任される責任には重みがあります。

私は高校、大学、社会人と野球を続け、そこから多くの経験を得ました。高校時代はPL学園で全国制覇を達成、連日大逆転での快進撃に「逆転のPL」と呼ばれ、「あきらめずに戦えば何かが起こる」という言葉を、身をもって実感しました。大学や社会人野球での負けが許されない緊張感の中で戦ったことも、得難い経験として私の一部となっています。青春時代、来る日も来る日も野球漬けの日々は、今でも思い出すたびに「よく耐えたな…」と思いますが、あきらめない心をもってそれらを乗り越えたことが大きな自信になっているのは間違いありません。

社会人野球の引退後は、パナソニック本社の営業として数々のビジネスに関わってきました。例えばEV(電気自動車)の黎明期に、車載部品の開発を自動車メーカーと共同で行い、グローバル市場におけるシェア拡大に従事。統括部長として300億円のビジネスを1600億円規模にまで広げました。その時も心掛けていたのは、ネバーギブアップの精神、あきらめない心です。企業のフロントである営業があきらめたら、ビジネスは広がりません。ある会社からの発注にたいして、社内リソースが埋まっていたときも、そこであきらめず、事業部の壁を越え別ルートのラインをつくって受注に繋げるなど、実現の可能性を信じて粘り強く動きました。頭は冷静に、されど気持ちは熱く、あきらめずに振る舞っていれば拓ける道が必ずあるというのは、スポーツもビジネスも同じだと思います。部下にも自分の成功体験をまじえ、単なる精神論にとどまらない、あきらめない気持ちを伝えてきました。

チーム・ガンバ大阪で

皆さんと喜びを分かち合いたい。

現在、新型コロナウイルス感染症によりクラブ運営が大変難しい状況にあります。そんな中でも100を超えるパートナー企業の皆様が「一緒がんばろう」と言ってくださり本当に感謝しています。選手たちには「その人たちのおかげでサッカーができていないことを忘れないでほしい」と伝えています。プロとしてサッカーを最優先させたい選手たちの気持ちもわかりますが、クラブの取支を見せ、現状を理解してもらった上で、送迎や洗濯など自分でできることはしてもらおうなど、共にこの困難を乗り越えるために協力合っています。

周りからは「大変な時に社長になったな」と言われますが、そうは感じていません。苦しんでいるのはどこも同じ。とにかく今はサポーター、パートナー、自治体、選手、そして我々スタッフが、ひとつのチームになってこの難局を乗り切る、そのための雰囲気をつくるのが社長である私の仕事だと思っています。

ガンバ大阪の理念は『サッカーを通じて、社会に夢と感動を創造する』。スポーツクラブの経営という社会を元気にできる仕事に、これまでとは違ったやりがいを感じています。これからも、私の原点である、あきらめない心をもって進み続けます。そしていつの日かリーグ優勝の喜びを、関係者全員で分かち合いたい!というのが私の願いです。

(取材:2020年7月7日)

Profile

1984年、経営学部商学科(現・マーケティング学科)卒業。在学中は硬式野球部に在籍し、卒業後も松下電器産業(現・パナソニック)で野球を続け、選手引退後はコーチを経験。その後社業に専念し、2020年4月よりJリーグのサッカークラブであるガンバ大阪社長に就任。タイトル獲得を目指す。